

縮小社会研究会



オンライン座談会

日時：2022年3月19日、15時～16時30分

オンライン(zoom)

<https://us02web.zoom.us/j/83945983633?pwd=MmFFQVBOMWN4UjBJUFRhSUNCQnVsUT09>

パスコード: 181415

ミーティング ID: 839 4598 3633

この2年間、新型コロナウイルスが蔓延し、これまで隠れていた社会の脆弱性を明らかにしています。特に日本においては1990年以降、経済成長は止まり、社会の変革も停滞しています。逆に、これからの縮小社会を考える糸口にもなっています。これについて伊藤公雄さんが、京都大学の人社未来形発信ユニットの「立ち止まって、考える」にて、2回にわたり講義（各1時間、下記）をされています。それを事前に見ていただいて、本座談会にて皆さんと討論します。

第1回 2021年9月5日 <https://youtu.be/GRWdPYszUOI>

第2回 2021年9月11日 <https://youtu.be/3JF9d6CYwqA>

コロナが露わにした現代社会

伊藤公雄（京都産業大学教授、京都大学&大阪大学名誉教授）

講演要旨：

2020年初頭から猖獗をきわめた新型コロナウイルスは、現代世界の脆弱性を露わにさせた。特に日本社会においては、政府の対応のミスも含めて、行政組織の機能不全、医療問題、デジタル化の遅れなどさまざまな問題が顕出することになった。今回の「コロナ」を通して見えてきたのは、1990年代以後停滞してきた日本社会の混迷する姿だったのではないだろうか。今回は、社会学の観点から、現代日本社会のかかえている「病巣」を探り、今後ますます深化する少子高齢の日本社会のなかで、どのようなポスト「コロナ」が構想できるのかについて考えてみたい。



参加登録：非会員の方は、松久 (h.matsuhisa@shukusho.org) まで氏名と所属などをお知らせ願います。参加費は無料です。

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>